

今、日本で最も必要とされている友愛精神を実現し、実行している我々の町は、誇りを持てる町になっていると思います。この関係が未永く続くことを祈っています。

30年ほど前、旧東藻琴村を訪れた時、何の関係もない氷川町と大空町が交流に発展するとは思いませんでした。しかも熊本県で一番狭い町と北海道で一番広い村の交流。これは面白いことになると思います。



▲交流のきっかけを作った尾上宗一氏

訪問団が語る交流の「これまで」と「これから」



▲四宮和明観光物産協会会長

ふるさとまつりに参加しましたが、町民参加型の内容だと感じました。また、ロール転がしどつてん酷は、その名のとおり「酷なレースで、途中棄権も脳裏に浮かびましたが、氷川町代表として無事にゴールすることができました。氷川まつりも芸能人に頼らない企画を検討したものです。

人の出会いが九州と北海道という地域差を越え、深い「絆」を生み、政治を動かす、そして子どもたちにも大きな「夢」を与えていると思います。今後も人の交流事業が継続されていくことを希望します。



▲下山清信商工会長

今回は、友好町提携10周年記念事業ということで、ふるさとまつりに参加しました。私たちも参加したロール転がしをはじめ、住民参加型のまつりで、会場の広い芝の上には、焼き肉用ドラムが準備され、炎天下の中たくさんの方々が楽しんでいました。水川町より持ち込んだ商品もたくさん購入していただき感謝の気持ちでいっぱいです。

今後、より交流が深まっていくことを期待します。



▲久保田時雄氷川柑橘部会部長

最後に、今回の私たちの体験が、交流や祭りのあり方に、一役お手伝いができればと思っています。



熊本県氷川町 北海道大空町 災害時相互応援協定調印式

未来に向けて

災害相互応援協定締結 「人から物」交流は新たなステージへ

8月25日から28日にかけて友好と信頼を一層深めるべく、さらに「人から物」への交流を実現すべく、藤本町長をはじめ、交流のきっかけとなった尾上宗一氏ら9人が10周年記念事業として大空町を訪問しました。

災害時相互応援協定(※)

8月27日、大空町東藻琴総合支所において、藤本町長、大空町山下町長出席の下、災害時相互応援協定の調印式が行われました。

・藤本町長コメント

「昨年の東日本大震災、今年九州北部豪雨など身近に大きな災害が発生し、お互いに助け合うことの大切さというものを身に染みて感じています。そういった中で、今回この協定を結ぶことができ、心強く、大

「物」の交流実現へ

今回の訪問の大きなテーマの一つに「物」の交流がありました。これまで「人」を中心に交流を続けてきましたが、10年の節目の年にもう一段階交流を進めようということで、関係者により活発な意見交換が行われました。

藻琴山 標高1000m

九州と北海道という離れた場所にあること、販売方法などさまざまな課題はありますが、できることから始め、お互いの良いところを引き出し、いこうと前向きな意見が出され、今後の方向性を見いだすことができました。



▲渡辺洋己北物産館支配人

北の大地はあまりにも大きくて、自然環境的にも風土的にもまるで違った世界でした。土地柄、人柄、皆さん大らかで明るく、温かい、大空町という名前とおりの場所でした。

農業を基盤とした産業振興において、核となる道の駅めまんべつ内のカルチャーセンターとつながり、核となる道の駅めまんべつに設置を有しており、我々としては垂涎的であり、大いに参考になりました。ふるさとまつりもロール転がしやバーベキューなど住民参加型で、今後のイベントの企画立案にも勉強となる催しでした。